

第3章 集約型都市形成の課題と基本方針

（１）集約型都市構造形成の課題

１）人口減少、高齢化等の社会情勢の変化に伴うまちづくりの問題点

本市の現状と将来の見通しを踏まえ、社会情勢の変化に伴う本市のまちづくりの問題点を整理します。

ア）生活利便性の低下

商業・医療・福祉など、市民の日常生活を支える都市機能の利用者の減少により、一定の人口密度に支えられた日常生活を支える様々な施設が撤退し、利便性が著しく低下する恐れがあります。

また、中心市街地においても低密度化の進行により、広く市内の暮らしを支えている中心市街地の各種都市機能の維持が困難になると危惧されています。

イ）市街地の活力低下

令和 27（2045）年には、市街化区域内の人口が令和 2（2020）年比で 4 割程度減少すると見込まれ、人口減少による財政緊縮、サービスの担い手不足等から市街地の規模を維持することは困難となります。

また、様々な都市施設の市街地からの撤退に加えて、空き家・空き地の増加などが顕著となることで、市街地が空洞化し、治安や景観の悪化等、まちとしての魅力や価値の低下を招く恐れがあり都市拠点や観光交流、交通の拠点が集積している中心市街地においても市街地の空洞化が懸念されます。

ウ）公共交通利便性の低下

利用者の減少により公共交通が縮小、廃止されることで、日常の移動の利便性が低下し、特に高齢者等の交通弱者にとって外出頻度や活動の幅が制限され、健康な暮らしの維持が困難となる恐れがあります。

また、高齢化に伴い、運転免許証の返納等による交通弱者の増加が懸念されます。

エ）頻発化・激甚化する自然災害

近年、全国的に自然災害が頻発化・激甚化しており、大規模災害に見舞われた場合、甚大な人的・経済的被害の発生が危惧されます。

オ）財政負担の増大

人口減少により歳入の減少が見込まれる一方、高齢化率の上昇により市財政に占める社会保障関係経費の割合が増加し、自治体経営の基盤となる市財政の悪化を招く恐れがあります。

また、道路、公園などのインフラや公共施設等の老朽化に伴う維持や更新等の費用負担が重荷となることが懸念されています。

2) 集約型都市形成の課題

まちづくりの問題点を踏まえ、集約型都市形成に向けた課題を整理します。

ア) 市民生活を支える都市機能の維持

- 都市機能を支える利用者となる周辺人口を維持していくため、市街地の拡大・低密度化に歯止めをかける必要があります。
- 都市拠点や観光交流拠点、交通拠点が集積している中心市街地の空洞化の進行は、都市全体としての魅力や価値にマイナスの影響を与えるため、拠点としての都市機能の維持・充実を図る必要があります。
- 広域的な拠点としてだけでなく、広く市内の日常生活を支えている中心市街地の拠点性を維持する必要があります。
- 公共交通によるアクセスの利便性や既存の都市機能の集積状況等を踏まえ、都市機能を維持・誘導することが必要です。
- 都市機能の維持・誘導にあたっては、岡山市等の近隣市町を含めた市民の生活実態やニーズを踏まえて、維持・集約すべき都市機能を設定する必要があります。

イ) 安全で良好な住環境の維持・向上

- 居住地の魅力や価値を高め、地域の生活環境やコミュニティを維持しつつ、良好な住環境の創出に向けた取組が必要です。
- 市民の生命・財産等を守るため、頻発化・激甚化する自然災害のリスクに対する安全性を高める必要があります。
- 公共施設等は、今後、大規模修繕等の維持・管理が継続的に必要となることから、将来の需要を見据えた再編や適正配置等が必要です。

ウ) 将来都市構造等に対応した公共交通ネットワークの維持・充実

- 公共交通は、高齢化の進行により、今後一層市民の暮らしにおける交通手段としての役割が重要性を増すことが見込まれることから、市民が利用しやすい公共交通ネットワークの維持・充実が必要です。
- 都市計画マスタープランに示した将来都市構造等に対応し、公共交通を軸とした都市機能や居住の維持・誘導が必要です。

(2) 都市づくりの基本方針 (玉野市都市計画マスタープラン)**1) 玉野市の将来像**

玉野市総合計画では、玉野市の目指す将来像を“誰もが行ってみたい、住み続けたいまち ～たまので育つ、TAMANO が育つ～”としています。この将来像を実現するため、下記の5項目の基本目標のもと、まちづくりを進めていきます。

«将来都市像»

誰もが行ってみたい、住み続けたいまち ～たまので育つ、TAMANO が育つ～
 ・ ・ ・ 都市機能が充実した良質な生活空間の確保 ・ ・ ・

2) 都市づくりの基本目標**基本目標 (1) 快適に暮らし続けることができる都市構造づくり**

人口減少及び高齢化が進む中、将来人口を踏まえた市民の日常生活を支えるサービス施設を維持するため、既存のコミュニティを踏まえつつ、都市拠点と各コミュニティ拠点が公共交通を軸に連携するコンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造の形成により、誰もが多様なニーズに対応する都市サービスを受けることができ、快適に暮らし続けることができる都市構造づくりを目指します。

基本目標 (2) 都市基盤等、既存ストックを活かした持続可能な都市づくり

港湾や幹線道路等の産業基盤を活かし、製造業をはじめ、商業、農業等の振興を図るとともに、産業と観光の連携等を図り、産業基盤の一層の有効活用の推進を目指します。

さらに、鉄道・バスなどの陸上交通と、フェリーや大型客船バースなどの海上交通の結節点という立地条件を活かし、海の玄関口としての交通ターミナル機能の強化を図ります。

また、コンパクト・プラス・ネットワーク型都市づくりの考え方に基づき、既存の都市施設や都市機能の集積を活かしつつ、利用圏域に応じた施設の再編や適正配置を推進し、持続可能な都市づくりを目指します。

基本目標 (3) 安全で災害に強い都市づくり

激甚化、頻発化する自然災害に備えて、ハザード情報の一層の普及・啓発を図るとともに、ハザードエリアにおける新たな開発の抑制や、住宅、主要公共建築物などの不燃化、耐震化の促進、自然災害に対応できる治山・治水及び津波対策の充実など、甚大な被害を回避、軽減するための事前の防災・減災対策の推進を目指します。

また、有事に備えて、救援物資の輸送、復旧応援等の対応のため広域連携の強化を図るとともに、災害対策本部や救助活動の拠点となる施設及び体制の機能強化、避難路、避難地の確保により災害に強い都市づくりを目指します。

基本目標（４）瀬戸内の自然・文化・風土を活かした都市環境づくり

美しい瀬戸内海の自然環境、資源、景観、これと調和する緑豊かな山々の森林、市民に親しまれている海岸を守り育てることを目指します。

また、これらの資源を市民が再認識し、臨海のまちとして個性をはぐくむ環境都市づくりを目指します。

さらに、交通の結節点という地理的条件と、恵まれた瀬戸内の資源や産業資源を有効に活用し、活力ある産業、文化をはぐくみ、人々が行き交う活気あるまちの創造を目指します。

基本目標（５）協働による都市づくり

都市づくりにおいて、行政だけでできることには限界があり、市民や企業の果たす役割が重要であるとの認識を共有し、市民や企業と行政がパートナーシップを築き、地域の課題を解決したり、まちの魅力やにぎわいを創出したりする協働のまちづくりの推進を目指します。



3) 将来都市構造

宇野駅周辺を都市拠点とし、岡山市、倉敷市との広域連携を図りながら、各コミュニティ拠点と都市拠点をつなぐコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を形成します。

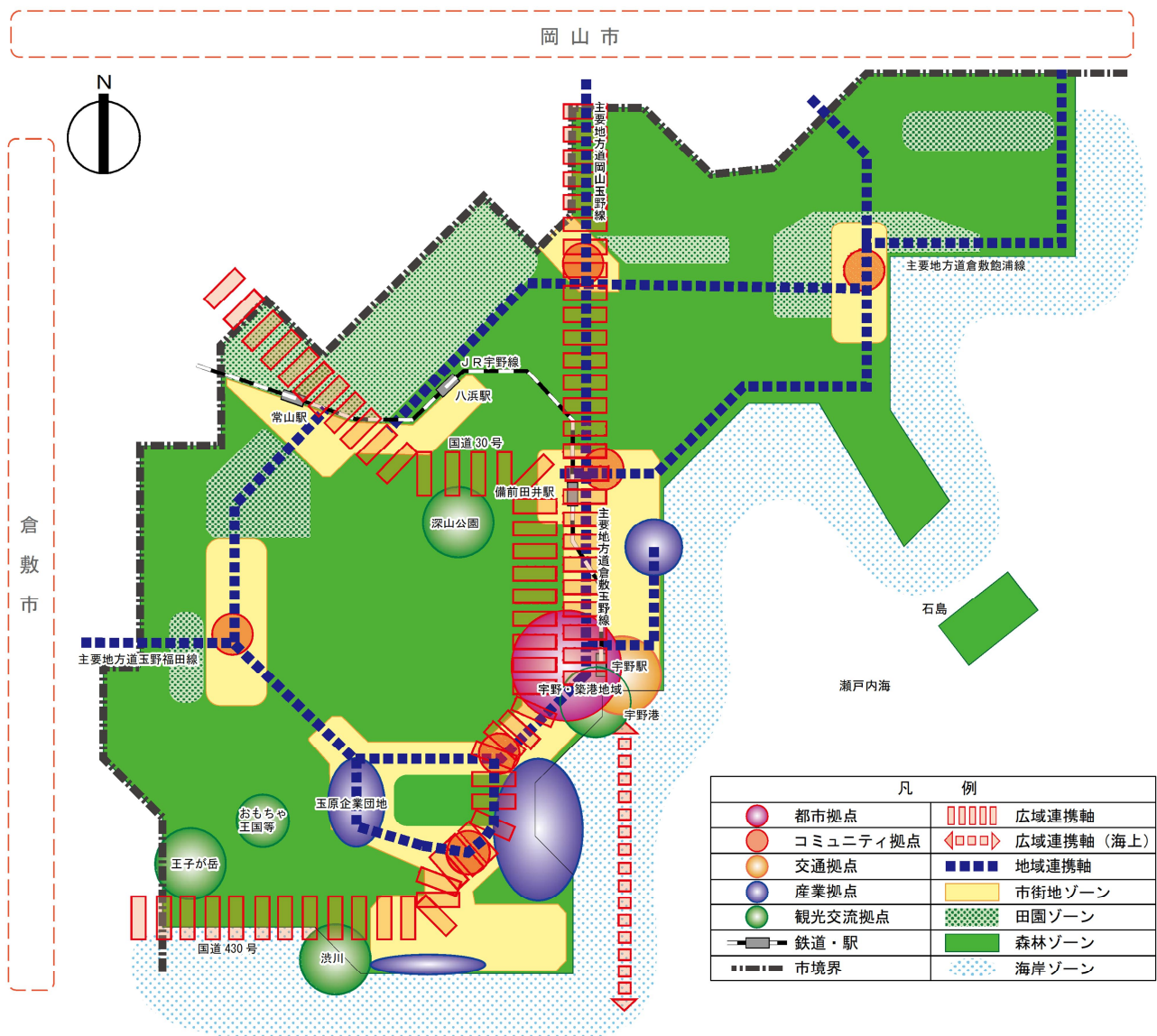


図 将来都市構造図

（3）集約型都市形成の基本方針

集約型都市形成に向けた課題及び都市づくりの基本方針を踏まえ、集約型都市形成の基本方針を整理します。

1）既存ストックを生かした安全・便利な都市づくり

自然災害のリスクを回避又は低減するとともに、既存の道路・公園等の都市基盤や日常生活を支える商業施設、医療施設等各種の都市機能のストックを活かし、安全で、公共交通によりアクセスしやすいなど利便性の高い地域において、居住や都市機能等の適切な維持・集約を推進します。

2）持続可能な公共交通ネットワークの維持・形成

高齢社会を支えるため、利便性の高い公共交通ネットワーク沿線などに居住を誘導し、将来都市構造に対応した持続可能な公共交通ネットワークの維持・形成を図るとともに、都市機能が集積している都市拠点等において歩きやすく、自転車が利用しやすいまちづくりを推進するなど、過度にマイカーに依存しない移動環境づくりを推進します。

3）多様な地域が連携した都市全体の魅力向上

市街地周辺の農村集落や臨海部を中心に立地している製造業等との調和を図りつつ、多様なライフスタイルやワークスタイルに対応できる魅力ある暮らしの場づくりを推進することで、地域全体が連携・補完して都市全体の魅力を高めあう都市づくりを推進します。



玉野市における集約型都市構造のイメージ